特集　自慢のメカニック【近畿・中四国】

技術進化で一層の存在感





9月1日に始まった「自動車点検整備推進運動」強化月間も残すところ1週間余りとなった。点検・整備の重要性の啓発に加えて確実な点検・整備の実施を呼びかけるため、全国の運輸支局や整備振興会などの関係機関・団体はさまざまな活動を展開している。特に、クルマの外出が増える秋の行楽シーズンを迎え、出発前の点検・整備の大切さを訴求する。

クルマ社会を支える整備士

担い手不足など課題は山積

運動期間中はポスターの掲示やチラシの配布などの啓発活動を実施しており、10～30歳代の若者にはテレビやSNS（会員制交流サイト）といった電子媒体を活用した広報を行っている。公共施設や競技場などの掲示板、バス車両の前面を利用した横断幕の掲示といったツールも活用する。近畿地区や中四国地区でも、地方運輸局をはじめ管内の運輸支局が自動車関係団体などと協力し、一般ユーザーに確実な点検整備の実施を呼びかけている。



こうした取り組みとともに、クルマの安全を担うのが整備士であり、その技術や知識が点検・整備の現場を支えている。その一方で、自動車業界で喫緊の課題となっているのが、この整備士の担い手不足だ。

育成就労制度 来年4月から

その対応策として注目を集めるのが「育成就労制度」だ。基本3年間の就労で外国人向けの在留資格（5年間）「特定技能1号」の技能水準への育成を目指す。現行制度では原則認めていない転籍要件を緩和し、同一企業で「1～2年間」の就労期間を経れば、本人の意向により転籍できる仕組みだ。2027年4月には新制度が始まる。給与水準が高い都市部への人材流出も懸念される一方、外国人技能実習などに代わる制度として期待も少なくない。

クルマの進化も整備士の存在感をより際立たせている。電気自動車（EV）や先進運転支援システム（ADAS）の搭載車両の増加などを受けて、24年10月にOBD（車載式故障診断装置）検査の運用が始まり、25年10月には輸入車でも本格的な運用も開始された。整備の高度化に対応する観点から、国土交通省は整備士の資格体系や受験資格の見直しを実施し、27年3月に新たな検定規則に基づく試験を開始する予定だ。

また、検定規則の改正に先立ち、実務経験の期間短縮を施行している。29年には自動運転車両の検査要件の強化も行われる。今後、自動運行装置（レベル3、4）を搭載する車両の検査を行う自動車検査員は、現在の要件に加えて一級自動車整備士資格が必要となる。

本特集で現場の整備士に焦点を当てることで、人手不足や技術革新などの課題解決のヒントを探る。

日産大阪

宝塚店　村田 純一さん

丁寧な予防整備の提案に力入れて信頼

看護師として働く親の姿を見て育った村田純一さんは、早くから資格を持って働くことを考え、自動車整備専門学校のオープンキャンパスで整備士の魅力に触れた。今年4月、日産「GT-R」の認定メカニックになった。資格を生かし、より高い技術を身につけたいという思いから社内試験にチャレンジしたという。「誇りと責任を感じます」と話す村田さんにとって、かつて憧れたスポーツカーに触れられることも大きな喜びだ。



GT-R以外の入庫車の点検や車検整備も担当する。時間配分を意識し、作業を早く終えた際には他の整備士を手伝い、営業やフロントとも連携したことで、店舗全体がチームとなって動く大切さを学んだ。異動により4月から勤める現在の店舗でもその経験を活かし、周囲とのコミュニケーションを大切にしながら成長を目指す。



GT-Rに携わる業務を一人で完結できる力を身につけ、将来は工場のチーフとして会社を支えることが目標だ。自身も挑戦を重ねてきた村田さんは、「失敗から学ぶことも成長に必要な経験になる。どんどんチャレンジして成長してほしい」と若手にエールを送る。

〈プロフィル〉**むらた・じゅんいち**　日産京都自動車大学校卒。2018年4月入社。30歳。大阪府豊中市出身。子どもが成長したらテーマパークに連れていきたいと笑みをこぼす。

会社概要　設立＝1968年▽本社＝大阪府大阪市中央区城見2－1－61ツイン21MIDタワー2階▽代表者＝小林恭彦社長▽社員数＝2289人▽拠点数＝新車81、中古車18、ルノー3

ホンダカーズ泉州

貝塚店　吉川 海成さん

貪欲な知識習得と現場経験で成長着々



今年3月にホンダ泉州へ転職しカーエンジニアとして歩み始めた。上司や先輩に教わりながら自動車整備の知識習得に励む毎日に、「大好きなクルマに触れられる仕事に就けた！」と目を輝かせる。夢を一つ叶えた喜びが活力源となり、成長の階段を駆け上る。

子どもの頃からクルマやバイクが好きで、高校卒業後は地元の泉州エリアで、整備士の職を求めた。当時は望みが叶わず、自動車関連企業へ就職したが、「自動車整備の仕事がしたい」という思いが徐々に強まり、思い切って転職を決めたという。

自身のバイクを整備することはできるが、クルマの知識はゼロからのスタート。帰宅後も部品について調べるなど、貪欲に知識の習得に努めた。「クルマ一台に使われている部品の多さに驚いた」と打ち明けるが、「この部品はどんな役割なのだろう？どこにつながっているのか？」と次々に興味が湧くという。

現場での経験と帰宅後の復習の成果が表れ始めた今、「吸収が早いな、このまま頑張って」という上司の言葉が、吉川さんのやる気をさらにかき立てる。

今後、国家整備士資格取得へ向けた取り組みも始まる。「誰からも頼られるエンジニアになりたい」と力を込める。吉川さんが整備した見覚えのある車両が、地元の泉州エリアで行きかう日は近い。



〈プロフィル〉**きっかわ・かいせい**　大阪府立信太高校卒。2026年3月入社、20歳。大阪府貝塚市出身。休日はバイク整備や友人とのツーリングを楽しむ。

会社概要　設立＝1985年▽本社＝大阪府和泉市肥子町2－8－56▽代表者＝大塚雅仁社長▽社員数＝400人▽拠点数＝新車12、中古車4、ホンダドリーム1

常に自助努力　緊張感絶やさぬ作業

スズキ自販近畿

吹田営業所　**嶋本　龍樹**さん



嶋本さんのモットーは、常に向上心を持ち、何ごとにもチャレンジすること。小・中学校時代の野球部、高校時代のラグビー部で叩き込まれた教えが、カーエンジニアとなった今もなお、嶋本さんの成長を後押ししている。

自動車販売店を営む義兄の影響で、自動車整備に興味を持った。就職活動には真剣に取り組み、8社訪問した中でスズキ自販近畿に入社した。給与や福利厚生といった待遇面のほか、今後さらに高齢化が進むことを見据え、生活の足として安定したニーズが見込まれる軽自動車のディーラーを希望したという。「スズキの独特なクルマづくりも魅力」だった。

入社6年目となり、車検や車検見積りのほか、一般整備など仕事も増えてきた。分からない時はまず自分で整備書をよく読んでから、次に先輩に質問するよう自助努力を怠らない。また、小さなミス一つでも命に関わる事故を引き起こすため、「作業の一つひとつ緊張感を絶やさない」ことを意識している。

接客では、言葉遣いはもちろんのこと、話し方や声のトーンまで相手に合わせて変えるなど、きめ細やかな対応を心掛けるという。故障診断で不具合を修理し車両を引き渡した際に「直ったね、ありがとう」という顧客からの感謝の言葉に、やりがいを感じた。

キャリアアップに向け「取得できる資格はすべて取っていきたい」と前向きだ。「場数を踏み、分からないことは覚え、慣れる。知識と技術を着実に身に付け、足場を固めたい」と力を込める。その先に見えるものは、整備主任として後輩をリードする嶋本さんの姿だ。



〈プロフィル〉**しまもと・たつき**　大阪自動車整備専門学校卒。2021年4月入社、26歳。大阪市港区出身。1歳半の長女と遊び、家族でのんびり過ごす。

会社概要　設立＝1963年▽本社＝大阪府大阪市浪速区敷津西1−1−5▽代表者＝竹内達郎社長▽社員数＝74人▽拠点数＝新車21、中古車3

スキルアップに燃えるムードメーカー

大阪ダイハツ

守口店　**橋野　翔**さん



「体を動かすことが好き」という橋野さんは、大阪府空手道選手権で優勝を果たすなど、スポーツが得意。野球やフットサル、ツーリングなどの社内チームからもよく声がかかる人気者だ。「人から『生き生きしているね』と言われることが多いのですが、実際に毎日が楽しいのです」と笑い、人懐っこい表情を見せる。店舗では現在最年少だが、ムードメーカーとして店舗を盛り立てる大きな力だ。

入社3年目の現在、点検や車検整備のほか、ドライブシャフトの交換といった一般整備も任されるようになった。「仕事をしながら知識を深め、できることを増やしていきたい」とスキルアップに意欲的だが、入社1〜2年目は壁もあった。入庫台数の多い店舗に配属されたこともあり、新しい作業にチャレンジする余裕が持てず、点検整備を繰り返す日々に苛立ちがあったという。

「忙しい中で自分のフォローをしてくれる職場の先輩にわがままは言えない」との思いから、当時は採用担当者へ胸の内を相談したり、筋トレや空手に打ち込み気持ちを切り替えたと振り返る。



「あの頃点検整備を数多く経験したからこそ基礎固めができたのだと思う」と、当時の悩みは先輩への感謝に変わった。「この先後輩ができれば、何でも頼ってもらえる存在になりたい」と力を込める。"自分の面倒を見てくれた先輩への恩返しになる」との思いからだ。橋野さんの明るいキャラクターの奥には、繊細な優しさが灯っている。

〈プロフィル〉**はしの・かける**　大阪自動車整備専門学校卒。24年4月入社、22歳。大阪府枚方市出身。休日は小中学生に空手を指導。子どもたちの笑顔に癒される。

会社概要　設立＝1930年▽本社＝大阪府大阪市福島区1−4−26▽代表者＝三宮士郎社長▽社員数＝825人▽拠点数＝新車26、中古車専売6

神戸トヨペット　レクサス神戸西 **安黒　智也**さん／大久保店 **松田　陽向**さん



神戸トヨペットは今年で創業70年を迎え、より一層、地域に根差した企業として、新たなスタートを切った。防災などの地域貢献活動やスポーツ振興へ積極的に取り組み、モビリティカンパニーとして動き出している」という。足りなかった部分を学ぶことで、より質の高い整備士へと成長している最中だ。

レクサスでは、担当した整備士がユーザーに点検後の説明や、見送りをするなど「お客さまと接する機会が多い」ことから「お客さまから直接、感謝の言葉をかけてもらえるのが嬉しい」と日々のモチベーションにつながっているとも。

今後について安黒さんは「私を支えてくれている家族や職場の仲間に感謝を伝えながら、さらなるスキルアップを目指していく」と思いを語った。

同社の大久保店に所属する松田さんは「目指すならとことん上！」と誓い、専門学校へ4年通って一級自動車整備士の資格を取得し、同社で整備士としてデビューした。

チャレンジ精神を常に持つ松田さんは、入社1年目では経験できないような作業も「先輩から教わりながら行うことも」と熱心さが人一倍だ。こうした積極的な頑張りによって、25年度の社内表彰で新人賞を受賞するなど、成果にもつながっている。

自身が成長できる環境について「スタッフ同士の雰囲気良く、互いに支え合えるから」だという。日々の成長は、整備を通じて顧客に還元することで「満足度向上につながればうれしい」と笑顔をみせた。今後も挑戦と成長を続け「いつかは憧れの〝トップクルー〟に！」と熱い思いを語った。

安黒　質の高い整備士へ学びの日々

安黒さん



松田　いつかは憧れの〝トップクルー〟

松田さん





会社概要　設立＝1956年▽本社＝兵庫県神戸市兵庫区水木通2丁目1−1▽代表者＝西村公秀社長▽社員数＝1259人▽拠点数＝新車35拠点、中古車取扱17拠点、レクサス5拠点（CPO含む）、板金塗装工場4拠点

〈プロフィル〉**あぐろ・ともや**　2001年生まれ24歳、2022年3月トヨタ神戸自動車大学校自動車整備科卒。趣味は小学校の時から続けているダンス教室に通うこと／**まつだ・はるひ**　2002年生まれ23歳、2025年3月トヨタ神戸自動車大学校高度自動車科卒。小学校から続けている野球で忍耐力がついたとか。

心を込めた作業で安心のクルマ提供

日産プリンス兵庫

玉津店 サービス課　**庄司　流基**さん



日産が誇るスポーツカー、GT−Rなどに憧れ「日産の整備士を目指す！」と強い思いを抱いたのが整備士を目指したきっかけ。自身でもフェアレディZを所有するほど、日産車への愛が深い庄司さん。数ある日産ディーラーの中でも日産プリンス兵庫には知識や経験、技術力に長けたメカニックがたくさん在籍していることから「日産のスポーツカーを所有する多くのお客さまから、特に頼りにしていただいている」ことが入社の決め手だった。

もちろん、スポーツカーだけでなく、日産の技術が結集した電気自動車（EV）やeパワー搭載の最新車両などを扱うため「ガソリン車から電動車まで幅広い知識と経験を積むことができる」と整備士として日々、やりがいを感じているそうだ。

庄司さんは整備士を「安心安全なクルマ社会に必要不可欠な存在」とし「誇り高い仕事」であると話す。淡々と作業をこなすのではなく「お客さまのことを思い、クルマのことを思い、誰もが安心して乗れるクルマを提供する」ことが自身のモットーだ。

クルマは日々、安全性が高まり進化しているが、同時に先進的な技術の採用が多くなっている。庄司さんは「ベテランの先輩方のように、古いクルマから最新の車両まで、どのようなクルマにも困ることなく対応できるメカニックを目指す」と大きな目標に力を込めた。



〈プロフィル〉**しょうじ・りゅうき**　2002年生まれ24歳、23年3月日本工科大学校卒。趣味は釣りで、同じ店舗の同僚とも一緒に行き休日を楽しんでいる。

会社概要　設立＝2008年▽本社＝兵庫県神戸市灘区烏帽子町3−3−11▽代表者＝加藤達也社長▽社員数＝232人▽拠点数＝新車13、中古車3

兵庫日産　SNSなどで積極的に店舗情報発信

滝野西店 テクニカルスタッフ　**足立　玲音**さん



「毎日、好きなものに触れる。私にとって天職だ」と語るのは入社3年目で期待のホープの足立さん。難しい作業や初めての作業にも積極的に挑戦し、自身のスキルアップに日々努めている。

幼少期からクルマが好きだった足立さんは、手先が器用なことも生かすべく整備士への道を志した。整備士の仕事の魅力について「故障診断など考えながら作業し、無事に終えられた時の達成感」を挙げた。また、作業後にユーザーへ作業の説明をした際、〝ありがとう〟を直接聞くことで「次も頑張ろうと思える」と日々のやりがいになっていることを話した。

足立さんは整備士として、安心安全なクルマを届けているだけでなく、若手スタッフとして店舗の情報発信も積極的に務めている。「どのように書けば興味を持ってもらえるか、来店したくなるか」を考え、店舗ブログや店舗SNSを更新している。「整備と同じで、どうしたらいいかを考えることを大切にしている」と整備以外からも自身の成長につなげている。

今後も自分の成長を続けることを大切にしながら、技術や知識を積み上げて「社内資格の1級を取得したい」とチャレンジ精神旺盛な足立さん。入社1年目からの目標でもあったサービス技術大会の予選である近畿大会で1位となり、全国大会への出場権を得た。成長の勢いは止まらない。



〈プロフィル〉**あだち・れおん**　2001年生まれ24歳、24年3月日産京都自動車大学校卒。父が大事に保管していたセドリック（Y31系）を譲り受けて自身でレストアし、自慢の愛車に仕立てた。

会社概要　設立＝1944年▽本社＝兵庫県神戸市中央区北本町通5−2−24▽代表者＝髙橋博文社長▽社員数＝1153人▽拠点数＝57

スズキ自販兵庫

感謝の言葉、感謝の気持ちを忘れずに

スズキアリーナ加古川南
長谷川 淳也さん

スズキアリーナ神戸西インター
グェンタン ヴォンさん


ヴォンさん


長谷川さん

同社にはスズキサービス検定一級の取得者やサービス技術大会で優秀な成績を収めたメカニックがいるなど、技術力の高い整備士がそろう。スズキアリーナ加古川南の長谷川さんも昨年、同検定の一級を取得した一人。

「専門性が高く、誰もが安心・安全に過ごせる重要な役割」と整備士の重要性を語った。最近は電気自動車（EV）もラインアップに加わるなど、一層、最新技術への知識と対応が大切になっている。大変なことが多く、責任も大きい一方、やりがいと成長が感じやすいといい「作業後にお客さまからの感謝の言葉を直接いただけることも仕事の魅力」とも。

今後は検査員の資格取得を目標に掲げ「先輩方に追いつき、何でも任せてもらえる整備士が最大の目標」と思いを述べた。

スズキアリーナ神戸西インターのヴォンさんはベトナム出身。同じ母国の仲間と支え合いながら、日々奮闘している。

機械修理に興味があったヴォンさんは、整備士を目指し日本へ。初めは不安だったが、ここで同じ目標を持った同郷の出身者と出会えたことがうれしかったとか。整備士のやりがいについて「難しい作業はまだできないが、一つずつ成長を感じられるところ」だという。

自身を支えてくれるスタッフや顧客に感謝の気持ちを大切にしているヴォンさん。「皆さんから信頼される立派な整備士を目指していく」と今後の目標を語った。

〈プロフィル〉**はせがわ・じゅんや**　1999年生まれの26歳、20年3月に阪神自動車航空鉄道専門学校を卒業／**グェンタン ヴォン**　1998年生まれの28歳、2017年に日本へ留学し22年3月に日本工科大学校を卒業。

会社概要　設立＝1964年▽本社＝兵庫県神戸市西区伊川谷町有瀬1567―1▽代表者＝森田洋一郎社長▽社員数＝439人▽拠点数＝19



トヨタモビリティ滋賀

対話と技術で顧客と確かな信頼関係

高島店
サービスエンジニア
馬場 穂威さん



エンジニアとして何より大切にしているのが顧客との誠実な対話だ。「整備士が直接お客さまと対話できる環境に魅力を感じた」と、入社の決め手を語る。丁寧なヒアリングで顧客の顔や車の利用状況を把握し、信頼を育む。「自分には当たり前の整備でも、お客さまには特別な価値がある。直接届く『ありがとう』が一番のやりがいだ」と笑顔をにじませる。

技術と提案力の追求にも余念はない。スキャンツールで異常を検出できない故障では、試乗を通じて不具合の発生条件を突き止める。原因を特定し、的確な整備や予防保全につなげる高い技術力を発揮している。用品提案でも「単に売るのではなく、なぜ必要かを顧客目線で説明する」ことを徹底。毎週のサービス会議でノウハウを共有し、店舗の成長をけん引する。

社内では、店舗の垣根を越えた交流の機会や研修制度が充実している。「知識や悩みを共有できる仲間がいる」と語る。こうした交流と学びの環境が、迅速な対応力の向上と一人ひとりの成長を支えている。

将来の目標について、馬場さんは「現場と会社をしっかりつなぎ、仲間から頼られるサービス部長になりたい」と力を込める。誠実な対話と確かな技術で、お客さまと仲間の信頼に応え続ける馬場さん。理想のエンジニア像を目指し、今日も笑顔で現場に向かう。



〈プロフィル〉**ばんば・ほだか**　トヨタ名古屋自動車大学校卒。2019年4月入社。27歳。滋賀県高島市出身。趣味はバレーボールやゴルフ、フットサル、スノーボード。愛車はRAV4。

会社概要　設立＝1957年▽本社＝滋賀県大津市富士見台1―1▽代表者＝小澤伸之社長▽社員数＝404人▽拠点数＝新車13、レクサス1、GRガレージ1、ジェームス1

滋賀トヨタ

互いに支え合うチームワーク大切に

入社以来、確かな技術と真摯（しんし）な接客で現場を支えている立岡さん。「風通しが良く、成長できる環境があったからこそ今がある」と振り返る。入社2年目でトヨタ検定1級、3年目で自動車検査員資格を取得した。現在は最上位資格の「トップクルー」を目指している。「どんな車でも整備でき、どのような質問にも対応できる整備士になりたい」との目標を掲げ、旧車や海外車種を含む幅広い知識の習得に余念がない。

整備作業だけではなく顧客対応も自ら行い、要望を直接聞き取って整備に生かしている。「直接話を聞けば意向を正確に作業へ反映でき、整備内容も分かりやすく説明できる。『ありがとう』の言葉と笑顔が一番の励みだ」と話す。経験を重ねる中で、洗車や車内清掃の重要性も痛感した。「点検や整備に加えて車をきれいに仕上げれば、お客さまにさらに喜んでもらえる」と考え、ホイールや車内まで徹底して清掃している。

後輩指導では「ナットの締め付けなど、力加減は自分でやってみないと感覚がつかめない」と実践を重視する。自分の作業が終わっても互いに支え合う店舗のチームワークを大切にし、休日には後輩と一緒に釣りへ出かけることもある。後輩の育成に力を注ぐ一方で、自身も研鑽（けんさん）を重ね、どんな依頼にも応えられる整備士を追い求めている。





〈プロフィル〉**たつおか・たける**　トヨタ名古屋自動車大学校卒。2020年4月入社。28歳。滋賀県甲賀市出身。趣味は釣りとバイクツーリング。

会社概要　設立＝1942年▽本社＝滋賀県大津市本宮2―9―12▽代表者＝吉川敦巳社長▽社員数＝617人▽拠点数＝新車20、中古車3、レクサス2（CPO含む）、GRガレージ1

滋賀ダイハツ

強い兄弟の絆　磨き上げた高い技術

水口店
カンデル ゴクルさん

草津店
カンデル スマンさん

滋賀ダイハツでは、ネパール出身のゴクルさんとスマンさんの兄弟整備士が活躍している。2人は共に岐阜県の中日本自動車短期大学で専門知識を学び、国家資格を取得して日本の自動車整備の道へ進んだ。

2022年に入社した兄のゴクルさんは、琵琶湖をはじめとする自然豊かな滋賀の環境に惹（ひ）かれた。SDGs活動に積極的な社風や、面接での温かい対応にも感銘を受け、入社を決意。現在は2級整備士として働きながら、「外国人で初となるダイハツ検定1級を必ず取得する」と意欲を燃やす。

兄の勧めで23年に入社した弟のスマンさんは、会社の魅力を語る。「国籍に関係なく温かく迎え入れてくれた。働きやすく、助けてくれる仲間がいる」。当初苦手だった接客対応は、社内のAIツールで克服した。現在は、作業を点検・承認する「主任者」を務めるまでに成長。顧客アンケートには、鳥居社長がネパール語で「ラムロ（良かった）」と書き添える。その直筆メッセージが、日々の大きな励みだ。

苦労を乗り越えた2人には、共通の夢がある。「日本で培った確かな技術を母国へ持ち帰り、整備工場を作ること」だ。現地の安全なカーライフに貢献したいという高い志を抱く。兄弟の絆を胸に、未来を切り開く彼らの挑戦はこれからも続いていく。


スマンさん


ゴクルさん

〈プロフィル〉**カンデル ゴクル**　中日本自動車短期大学卒。2022年4月入社、30歳。ネパール出身／**カンデル スマン**　中日本自動車短期大学卒。2023年4月入社、29歳。ネパール出身。

会社概要　設立＝1954年▽本社＝滋賀県栗東市大橋4―11―5▽代表者＝鳥居和浩社長▽社員数＝438人▽拠点数＝滋賀県内13







奈良トヨタ

大きなミスを防ぐことで若手を守る

モビリティガーデン
L工橿原テクノショップ
サービスエンジニア
リーダー
中西 一誠さん



2026年から本格的に外国籍のメカニックの採用を開始した奈良トヨタ。同社では、充実した研修制度を整えているほか、レストア事業を通じた技術の継承を積極的に実施している。中西一誠さんは若手の育成に貢献するベテランメカニックの一人だ。

19年、中西さんはサービスエンジニアリーダーに抜擢され、「守られる側から守る側に」なり、大きな節目を迎えた。長きにわたるメカニック人生で失敗も多く経験し、何度も上司や先輩に助けられてきた中西さん。後輩メカニックを守る側へと立場が変わった今、目指すところは「いかに生死に関わる失敗をさせず、若手メカニックを育てるか」だ。「ある程度の作業は若手に任せて、自分でできるように指導しているが、許されないミスもある。そのミスを防ぐことがリーダーとしての責任であり、またメカニック本人を守ることや整備品質の向上、顧客との信頼関係の維持につながる」と強調する。

メカニックの魅力については、「お客さまからの感謝の言葉をもらうたびに人の役に立つ仕事だと実感できる。そして後輩から頼られることがやりがいにつながっているからだ。最近では、若手と接することで刺激をもらうことも楽しみの一つになっているそうで、「今後も体が元気なうちは整備に携わりたい」と笑みを見せた。

〈プロフィル〉**なかにし・かずなり**　大阪産業大学自動車工学科（現システム工学部システム工学科自動車工学コース）卒。1998年4月入社。50歳。奈良県天川村出身。

会社概要　設立＝1942年▽本社＝奈良県奈良市南京終町2―269▽代表者＝菊池政社長▽社員数＝531人▽拠点数＝新車20、中古車3、レクサス2、フォルクスワーゲン1、まほろばミュージアム1

奈良スバル

技術と人間性磨き顧客から信頼を

奈良店
高垣 力弥さん



学びを共にした親友と、新たなステージでも成長を共にしたい――。そんな思いから奈良スバルへの入社を決めた高垣力弥さん。今では親友だけでなく、店舗スタッフの仲間と共に切磋琢磨（せっさたくま）しながら技術を磨いている。日々の整備では、お客さまの命を預かっているという責任感を胸に、ミスのない正確な作業を心掛けているという高垣さん。「責任ある仕事だが、難易度の高い仕事を無事にやり遂げられた時など、整備士としての醍醐味を感じる」と安心して愛車を任せてもらえる整備士を目指したい」と志を語る。

そんな自己研鑽（けんさん）を重ねる高垣さん支えるのは、仲間の存在だ。奈良スバルでは、1つの目標に対して店舗全体や全社で取り組む文化が醸成されている。高垣さんも入社当時、その一体感に圧倒された一人だ。共に頑張ろうという空気が、自然と互いを励まし支え合うアットホームな雰囲気をつくり出し、さらに互いを高め合うという好循環を生み出しているのだ。高垣さんは「仲間と切磋琢磨できる環境が日々の原動力になっている」と笑顔で話す。仲間と共に前進し続ける高垣さんの今後に期待は高まるばかりだ。



会社概要　設立＝1953年▽本社＝奈良県橿原市曲川町6―19―17▽代表者＝高木信一社長▽社員数＝136人▽拠点数＝新車5、中古車1（仮店舗）

〈プロフィル〉**たかがき・りきや**　日本モータースポーツ専門学校大阪校二級整備士学科卒。2017年4月入社。30歳。大阪府大阪市出身。趣味はキャンプやツーリング。

奈良日野

達成感や顧客からの感謝にやりがい



中島依吹さん



川村歩睦さん

大きな理由を持たずして整備士になった中島依吹さんと川村歩睦さん。今ではそれぞれのやりがいや楽しさを見つけている。入社6年目の中島さんは、「トラックドライバーである父の相談に乗れるようになりたい」と笑顔を浮かべる。無資格で入社したが、知識習得のための勉強や日々の作業に真面目に取り組み、今では2級ガソリン自動車整備士として活躍している。父親の困りごとを解決できたり、故障車両の出張整備を一人で対応してお客さまから感謝の言葉をもらったりした時に、やりがいや喜びを感じられるという。中島さんは「大変なことも多いが、苦労は整備できた時の喜びで吹き飛ぶ」と整備士の魅力を語る。今後は、修理もできて、業務の効率化にも寄与できるメカニックになることが目標だ。

入社5年目の川村さんは現在、主に車検を担当している。以前一般修理を担当していた際に、車両構造や故障原因などに触れる機会が多く、初めての作業に楽しさや面白さを見出すことができたという。一般修理で習得した知識は、現在の車検の作業でも役立っており、「故障箇所を直して、お客さまのお役に立てた時や、作業をスムーズに進められた時は、自分の成長を実感できる」とやりがいを語る。2人の成長は、整備士という仕事が「ほんの少しでも車に興味があれば、楽しみや面白味を見つけられる仕事」である中堅として活躍している。今後の彼らの活躍に期待だ。





会社概要　設立＝1956年▽本社＝奈良県磯城郡川西町大字唐院18―1▽代表者＝今井雅章社長▽社員数＝81人▽拠点数＝本社1

〈プロフィル〉**なかじま・いぶき**　奈良県立山辺高等学校生物化学科（現・農業探求科）卒。2021年4月入社。23歳。奈良県出身。趣味はゴルフやジェットスキー／**かわむら・あゆむ**　奈良県立磯城野高等学校農業科施設園芸科卒。22年4月入社。22歳。奈良県出身。趣味はゴルフ。

東中国スズキ

顧客からもスタッフからも信頼を

スズキアリーナ松永
天野 玲汰さん
松山 貴紀さん

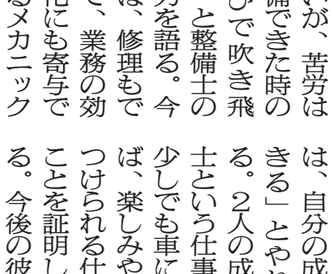


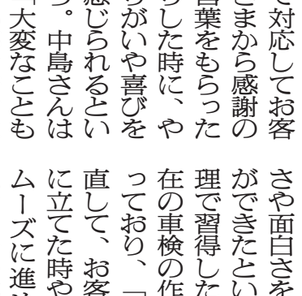
㊧天野玲汰さん　㊨松山貴紀さん

福山市のスズキアリーナ松永に勤務する天野玲汰さんと松山貴紀さんは、自動車整備士になるために通っていた岡山自動車大学校からの同期だ。互いをよく知る2人で、2024年にはスズキディーラーの整備士の技能を競う「スズキサービス技能大会」の中国ブロック大会にペアを組んで出場した。ベテランと若手のペアが多い中、若手のペアが珍しく、全国大会には出場できなかったが、「大会の雰囲気も分かり手応えを感じた」（松山さん）ため、26年の大会は2人で出場を志願した。結果はリベンジを果たせなかったが、これから課題改善に取り組み、「条件が整えば次回も出場したい」（天野さん）と意欲を示す。

天野さんは、車の整備に詳しい親戚が近所の人たちから頼られ感謝されていることに憧れ、中学3年生の時に整備士になることを決めた。松山さんも子どもの頃から車好きで、車をより知りたいという気持ちから、高校卒業後の進路として整備士になることを選択した。

入社直後は分からないことだらけで戸惑いが多かったという2人も、入社6年目となった今では普段は主に車検や点検作業に従事する中堅として活躍している。





今後の目標について、天野さんは「お客さまからも店のスタッフからもこの人に任せれば大丈夫と思ってもらえる整備士になりたい」と話す。松山さんも「信頼される整備士になりたい。そのためにもスズキサービス技能大会の全国大会に出場できる技能を習得し、資格取得にも挑戦していきたい」と意欲を燃やす。

会社概要　設立＝1963年▽本社＝岡山県倉敷市沖8―1▽代表者＝吉村良太郎社長▽社員数＝400人▽拠点数＝新車11

〈プロフィル〉**あまの・りょうた**　岡山自動車大学校1級自動車整備科卒。2021年入社。27歳。広島県出身。趣味は高校の頃から乗り続けているオートバイ。休日などに近場で運転を楽しんでいる／**まつやま・たかのり**　岡山自動車大学校1級自動車整備科卒。2021年入社。27歳。広島県出身。趣味は2、3年前から始めたゴルフだが、今年2月に男の子が誕生し、現在は子どもと遊ぶことが何よりの癒しだ。

スズキ自販松山

サービスコン全国大会に意気込む

スズキアリーナ松山東
兵頭 優一さん
スズキアリーナ萩生
井上 剛輝さん



井上剛輝さん



兵頭優一さん

兵頭さんと井上さんは、今年9月中旬に開催された「スズキ技能競技大会」の四国ブロック大会で優勝を果たすほどの腕前だ。11月下旬には全国大会に四国代表として出場し、優勝を目指す。今月にも2人は全国大会に向けた訓練を始め、電気自動車（EV）などの実車を用いて技術と知識に磨きをかける。兵頭さんは「互いに足りないところを補い合って大会で全力を尽くしたい」とし、井上さんは「地区代表として恥ずかしくない結果を残したい」と意気込みを述べる。

四国大会への出場について兵頭さんは「4年前の地区大会で先輩の姿を見て大きな憧れを抱いた」という。また、井上さんは「上司から出場を勧められた。まさか自分たちが優勝するとは想像していなかった」と話す。

全国大会に備えるのと併行し、2人は将来のキャリアアップへの努力も怠らない。兵頭さんと井上さんはともに、自動車検査員の資格取得を目標にしており、資格を取得することで業務の幅を広めたい考えだ。また、エンジンの分解整備などの高レベルな技術や知識を身に付けるように努めている。

その2人の共通点は、小さい頃からの乗り物好きが高じて整備士の道を志したことだ。兵頭さんは、興味の対象がバイクから四輪車に広がったことで整備士を目指した。井上さんは子どもの頃、自宅のミニカーで遊ぶなど子どもの頃からクルマと親しみ、中学時代には整備士の職場体験にも参加した。根っからのクルマ好きの2人は今後も、整備を通じて地元の人々の安心・安全に貢献したい考えだ。

会社概要　設立＝1990年▽本社＝愛媛県松山市高岡町1883―3▽代表者＝川路英治社長▽社員数＝173人▽拠点数＝7

〈プロフィル〉**ひょうどう・ゆういち**　2017年3月に日産愛媛自動車大学校卒業。22年4月に現社入社。趣味は同僚からの勧めで始めた釣りなど／**いのうえ・ごうき**　19年3月に愛媛県立新居浜高等技術専門校（現・新居浜産業技術専門校）卒業後、同年4月入社。趣味はキャンプやスタンドアップパドルボード。